

公表

## 事業所における自己評価総括表

|                |           |    |              |
|----------------|-----------|----|--------------|
| ○事業所名          | クルーズ長府    |    |              |
| ○保護者評価実施期間     | 令和7年12月8日 |    | ～ 令和7年12月29日 |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)    | 21 | (回答者数) 20    |
| ○従業者評価実施期間     | 令和8年1月13日 |    | ～ 令和8年1月31日  |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)    | 5  | (回答者数) 5     |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和8年2月25日 |    |              |

## ○分析結果

|   | 事業所の強み(※)だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること  | 工夫していることや意識的に行っている取組等   | さらに充実を図るための取組等  |
|---|---|---|---|
| 1 | モンテッソーリ教育をベースに子どもが自ら選び、自発的に活動へ取り組める環境づくりを大切にしています。個々の特性やニーズに応じた環境設定を行い、結果だけでなく過程を重視し、内発的動機づけを育む支援を行っています。挑戦する経験を積み重ねることで、自己肯定感や粘り強さ、意欲といった非認知能力の向上につなげています。 | モンテッソーリ教育をベースに自発的に活動に取り組めるよう、個々の特性やニーズに応じた環境設定を行っています。内発的動機づけを大切に、学ぶことを楽しみ、色々な事に挑戦し続ける力(非認知能力)を身に付けられるよう支援に努めています。  | 定期的に自己評価・保護者評価を振り返り、職員間で課題や改善点を共有し、支援内容や運営に反映させていく。今後も子どもの成長や変化に合わせて環境設定を見直し、自発性と主体性をより伸ばせる支援を目指す。        |
| 2 | 毎月の事業所内研修や外部研修を通して、職員の専門性向上に継続的に取り組んでいます。職員間での情報共有を大切に、PDCAサイクルを活用しながら、一人ひとりに合った支援を継続的に見直しています。   | 研修やFBA・日々の実践をPDCAサイクルでつなげ、支援方法や環境設定を柔軟に見直しています。また、理学療法士やスポーツインストラクターの専門的視点を活かし、一人ひとりの発達段階や特性に応じた運動・感覚指導を行っています。     | 子どもの成長や課題に応じて、運動・感覚活動のバリエーションを増やし、継続的にプログラムの見直しを行う。子ども自信が「できるようになった」を実感できるよう、振り返りや言葉かけを工夫し、自己肯定感の向上につなげる。 |
| 3 | 地域社会とのつながりを大切に、買い物レクリエーションや地域のイベントの参加など、実体験を通じた支援を積極的に行っています。あいさつやマナー、順番を待つこと、他社との関わり方などを自然に学べる環境を整え、社会性や生活の向上につなげています。                                     | 1人ひとりの特性や発達段階に応じて役割や目標を設定し、無理なく成功体験が得られるように工夫しています。活動前の流れや約束事を視覚的に具体的な言葉を用いてわかりやすく伝え、見通しを持って安心して取り組める環境づくりを意識しています。 | 小さな達成を積み重ねられるよう目標を段階的に設定し、活動の見通しが持てるようにする。職員間で支援方法や関わり方を共有し、一貫した支援が行える体制づくりを整えていく。                        |

|   | 事業所の弱み(※)だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること   | 事業所として考えている課題の要因等  | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等   |
|---|--|--|--|
| 1 | 子ども一人ひとりのニーズに応じた支援が求められる中で、さまざまな特性を持つ子どもたちが利用しているため、個々のニーズに対して十分にきめ細やかな対応が行き届かない場合があります。 | 子どもの特性や支援ニーズに多様化しており、支援方法や関わり方に幅広い専門性が求められていること。個別対応に十分な時間を確保することが難しい場合がある。              | 子ども一人ひとりに合わせた支援ニーズを把握するため、アセスメントや日々の記録・振り返りを充実させる。環境設定や教材の見直しを行い、子どもが自発的に活動しやすい環境づくりを進める。  |
| 2 | 施設の構造化や広さの制約により、活動の幅が限られることがあり、運動活動や集団活動の実施方法について工夫が必要となる場合があります。                        | 施設の構造や面積に制限があり、十分なスペースや集団活動の空間を確保することが難しいこと。安全面への配慮から、身体を大きく動かす活動や人数の多い集団活動の実施に制約が生じること。 | 活動を少人数に分けたり、時間帯を分散したりすることで活動スペースを有効に活用する。今後も運動や集団活動については内容に応じて外部施設や公共施設を借用し、活動の幅を広げる工夫を行う。 |
| 3 |  |  |  |